

朝鮮資料概説

1. 朝鮮資料とは何か

主として高麗時代（918-1392）、及び李氏朝鮮時代（1392-1910）に編纂・刊行された中国語の辞書及び教科書類のことを、中国語学の分野では「朝鮮資料」と総称している。朝鮮資料は日本及び琉球で編纂された「日本・琉球資料」、欧米の宣教師が編纂した「宣教師資料」とともに、音韻・語彙・文法の各面において当時の中国語口語をダイレクトに反映する重要な資料群と言える。ここでは、そのうち元代（1234-1367）、明代（1368-1661）、清代（1616-1911）の中国語を反映する会話教科書類を取り上げる。

2. 時代背景

(1) 中国大陸と朝鮮半島

中国大陸と朝鮮半島の本格的な接触が始まるのは高麗王朝の後期からである。13世紀に世界史上空前の大帝国を打ち立てたモンゴル帝国は、北方中国の攻略と相前後して朝鮮半島に侵入し、高麗は高宗46年（1259）以降元の服属国となった。漢民族王朝である明の建国により元が北方に追いやられるまでの間、高麗は様々な圧政と搾取に苦しめられるが、その一方で、多くの人々が政治・軍事・経済などの理由から朝鮮半島と中国大陸を往来するようになった。

(2) 外交・貿易と通訳

高麗から元に対しては毎年大量の物資や人間が貢物として送られるとともに、民間レベルでの商取引も活発に行われた。高麗の後を継いだ李氏朝鮮王朝では、建国当初から明の冊封（地域支配権の認定）を受けて事大（国家間における臣下と王の関係）の礼を取り、毎年朝貢の使節を派遣するとともに、以前にも増して朝貢貿易を盛んに行った。外交にせよ貿易にせよ、二国間の人的交渉に介在するのは通訳である。

(3) 通文館と司訳院

通訳ははじめ民間人から採用されていたが、不正が相次いだため、政府として専門の通訳（訳官）を養成する必要性が生じた。そのために近隣外国語の教育と研究に携わる機関となったのが、高麗の忠烈王2年（1276）に設置された通文館であり、李氏朝鮮初期の太祖2年（1393）にはそれが司訳院と改称された。当初は中国語通訳の養成だけでよかったが、交隣（国家間における臣下と臣下の関係）の礼を結ぶ周辺諸国との交流が盛んになるにつれて、その他の外国語の通訳も必要とされるようになった。そこで15世紀以降、司訳院には中国語の漢学とともに、モンゴル語の蒙学、女真語の女真学（のち満洲語の清学）、

日本語の倭学が設置され、この四学体制のもとで外国語を学ぶための辞書や教科書が編纂されることになる。

3. 中国語会話教科書

(1) 現存の教科書類

通文館と司訳院が編纂に関与した中国語教科書類のうち、現在一般に知られているものには次の七類がある：

- ①『老乞大』（14世紀末頃）及びその諺解・改訂本：会話書 <図版①参照>
- ②『朴通事』（14世紀末頃）及びその諺解・改訂本：会話書 <図版②参照>
- ③『訓世評話』（1518年）：物語集 <図版③参照>
- ④『象院題語』（1699年）：中国事情書 <図版④参照>
- ⑤『伍倫全備記』及び『伍倫全備諺解』（1721年）：戯曲 <図版⑤参照>
- ⑥『華音啓蒙』及び『華音啓蒙諺解』（1883年）：会話書 <図版⑥参照>
- ⑦『華音撮要』、『中華正音』、『你呢貴姓』、『學清』等（19世紀末頃）：会話書 <図版⑦参照>

これらのうち最も長い歴史を持ち、また広く流通したテキストが①の『老乞大』と②の『朴通事』であり（一般に『老朴』と略称される）、韓国・中国・日本でいくつかの影印本・点校本・訳注本が刊行されている。また①②③⑥⑦の主要なテキストは、最近刊行された汪維輝（2005）によって簡便に見ることができるようになった。

(2) 諺文と諺解

いわゆるハングル（諺文）が制定・公布されたのは李氏朝鮮の世宗 25 年（1443）のことであり、朝鮮民族はこれにより表音文字を手にとることとなった。それまで外国文字の発音を口伝で伝承するほかなかった司訳院の外国語教育はこれ以後飛躍的に発展し、ハングルによって文字の発音を示し、朝鮮語の訳を付ける「諺解」というスタイルが教科書の主流になる。上の中国語教科書類も、同じテキストに「漢字本」と「諺解本」の両様が存在するものが多い。

(3) 時代に応じた改訂

どの言語であれ、常に言葉は時代と共に変化するので、会話教科書は常に **up-to-date** なものでなければならない。司訳院では中国語の会話教科書類、特に『老乞大』と『朴通事』に対して改訂を加える作業を歴代にわたって行ってきた。その改訂は中国語の語彙・文法からハングルによる音注・朝鮮語訳、さらには内容の一部にまで及んでいる。改訂はまず漢字本について行われ、その後新しい漢字本に基づいた諺解本が刊行されるという形を取る。司訳院の訳官たちは、同一内容のテキストを対象として、**out-of-date** なものを削り、**up-to-date** なものに置き換えるという作業を行ってきたわけであるから、現存のテキスト群

を並べてみることにより、我々は全く同じ内容で各時代の言語を比較できることになる。おそらくこれほどの好条件に恵まれた中国語史の資料は他に存在しないであろう。

4. 言語の特徴

(1) 基礎方言

地理的条件から見て、当時の朝鮮民族が接触した中国人はほぼ東北地方から首都である大都・北京一帯、及び山東半島までの北方中国に限られるので、こうした教科書類に反映した中国語の基礎となる方言は中国北方の一方言であると言ってよい。細かい点ではさまざまな議論があるが、北方方言の内部差異はさほど大きくないので、概ね当時北京一帯で使用された言語であると見てよいであろう。

(2) 「漢児言語」

朝鮮の中国語教科書類には、現代の我々からみて通常の中国語としては違和感があるものが多く含まれている。その文法上の特徴は以下の三点に集約される：

①SOV 語順… “些少漢児言語省的”、“学他漢児文書怎麼？”

②後置成分の多用… “我漢児人上学文書”、“你誰根底学文書来？”

③特異な文末助詞の使用… “是漢児人有”、“不是好弟兄那甚麼？”

このうち①②の特徴は、彼らの母語である朝鮮語はもとより、中国大陸の北方に中国語を取り巻くように存在しているモンゴル語・ウイグル語・満洲語など「アルタイ諸語」が等しく持っている文法である。ここから、太田辰夫（1954）は北方中国における長期の言語接触の結果、漢族・北方諸民族が語彙は中国語、文法はアルタイ語に基づくという Pidgin-Chinese（あるいは Creole-Chinese）の如きものを共通言語としていたと考え、それを「漢児言語」という名称で表現している。この「漢児言語」的要素は、初期の文献ほど濃厚に反映されており、時代が降るにつれて通常の中国語的なものに回帰していくという傾向が見られる。

<この項の参考文献>

汪維輝編（2005）『朝鮮時代漢語教科書叢刊』（全4冊）北京：中華書局。

小倉進平著，河野六郎補注（1964）『増訂補注朝鮮語学史』東京：刀江書院。

韓國學文獻研究所（1982）『伍倫全備諺解』ソウル：亞細亞文化社（國語國文學資料叢書）。

太田辰夫（1954）「漢児言語について—白話發達史における試論—」『神戸外大論叢』5/3：

1-29；太田辰夫（1988）『中国語史通考』：253-282。東京：白帝社。

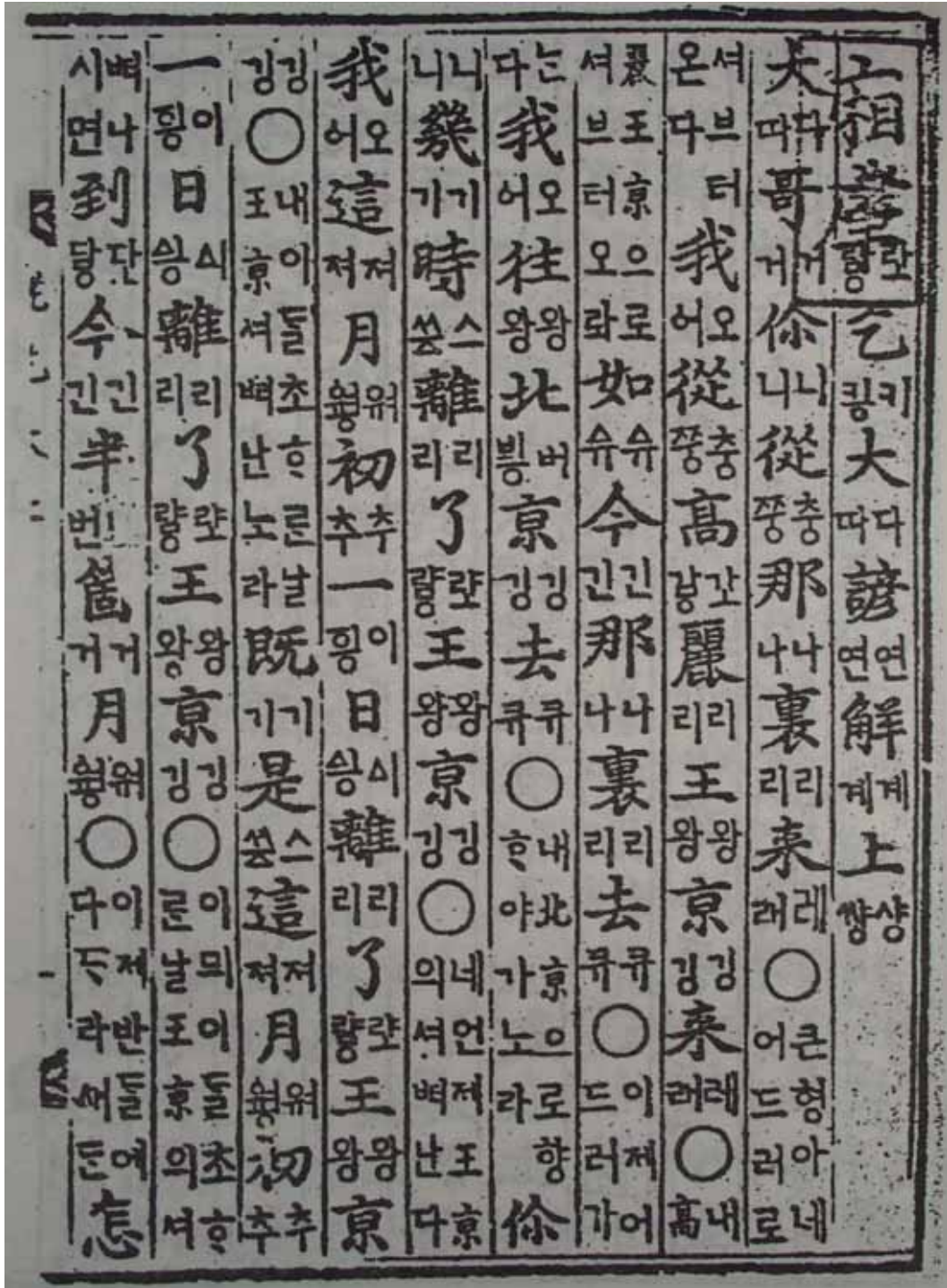
鄭光監修，金文京・佐藤晴彦・玄幸子訳注（2002）『老乞大—朝鮮中世の中国語会話読本—』東京：平凡社（東洋文庫 699）。

鄭光・尹世英（1998）『司譯院譯學書冊板研究』ソウル：高麗大學校出版部（人文社会科学

叢書 17).

—この項目は竹越孝が担当しました

<図版①> 『老乞大諺解』(汪維輝編 2005 による)



訓世評話上

虞舜父頑母嚚象傲常欲殺舜克諧以孝不
格姦後為天子不殺象封之有庠

古時虞舜他的父親瞽叟心裏無有德行
後孃也口裏無些兒好言語後孃生的象
呵越暴虐一心兒只要殺舜麼舜呵十分
孝順感動他回心不到姦惡後頭做了皇
帝不殺象顛倒封他有庠地面這箇是天
下的大孝

文王為世子時朝於王季日三鷄初鳴衣服



아 呼 니 名 喚 做 주 倫 備 〇 라 브 르 고 倫 備 字 〇	娶 繼 母 范 氏 生 弟 〇 氏 再 娶 母 范	不 幸 蚤 亡 〇 母 親 不 幸 父 親 再	唐 屬 南 豫 州 宋 曰 平 南 曰 太 平 府 母 親 親	秦 屬 南 漢 屬 丹 陽 晉 曰 當 塗 劉 宋 曰 姑 孰 母 親 親	守 〇 禹 貢 楊 州 之 域 春 秋 時 吳 地 後 屬 越 戰 國 屬 楚 記	生 曰 名 死 增 補 字 彙 生 時 任 太 平 郡 太	子 胥 名 貞 楚 平 王 時 人 父 親 諱 典 〇 諱 親 典	春 秋 時 伍 子 胥 的 後 〇 代 〇 時 春	是 倫 全 字 喚 做 天 常 〇 字 天 常 是	〇 小 生 姓 伍 名 倫 全 〇 伍 生 〇 姓 〇 〇	伍 倫 全 備 諺 解 卷 一 〇
--	---	--	--	---	---	---	---	---	---	---	---

<p>원하 遠哪</p>	<p>有人三百多里的地哪</p>	<p>你從家裡幾時起</p>
<p>의공부마 的工夫嗎</p>	<p>有人二十多天的工夫咧</p>	<p>遼東是在這多</p>
<p>나쁜곳이외동성안에서있고라 나쁜곳이외동성안에서있고라</p>	<p>비어지더당스하년다가멋히동살이</p>	
<p>넌어귀성아 餘呢貴姓哪</p>	<p>我不敢賤姓王哪</p>	<p>你呢貴處是那裡呢</p>
<p>넌어귀성아 餘呢貴姓哪</p>	<p>我不敢賤姓王哪</p>	<p>你呢貴處是那裡呢</p>
<p>넌어귀성아 餘呢貴姓哪</p>	<p>我不敢賤姓王哪</p>	<p>你呢貴處是那裡呢</p>